機関投資家様向け決算説明会を実施

2011年3月期決算説明会

2011年5月27日

鬼怒川ゴム工業株式会社

取締役社長　関山　定男

http://www.kinugawa-rubber.co.jp/

KINUGAWA

1. 2010年度決算の状況

2. 当社グループの取組み

3. 今後の取り組み

2010年度決算の特徴

過去最高益を達成

連結営業利益率11.5%
連結総資本経常利益率17.2%
日本事業営業利益率10.5%
東アジア事業営業利益率18.2%

連結子会社全社が増収増益

改善活動をグローバルに展開

東日本大震災への対応

すばやい復旧により、売上と収益のロスをミニマム化

KINUGAWA

2010年度決算概要

（単位：億円/未満四捨五入）

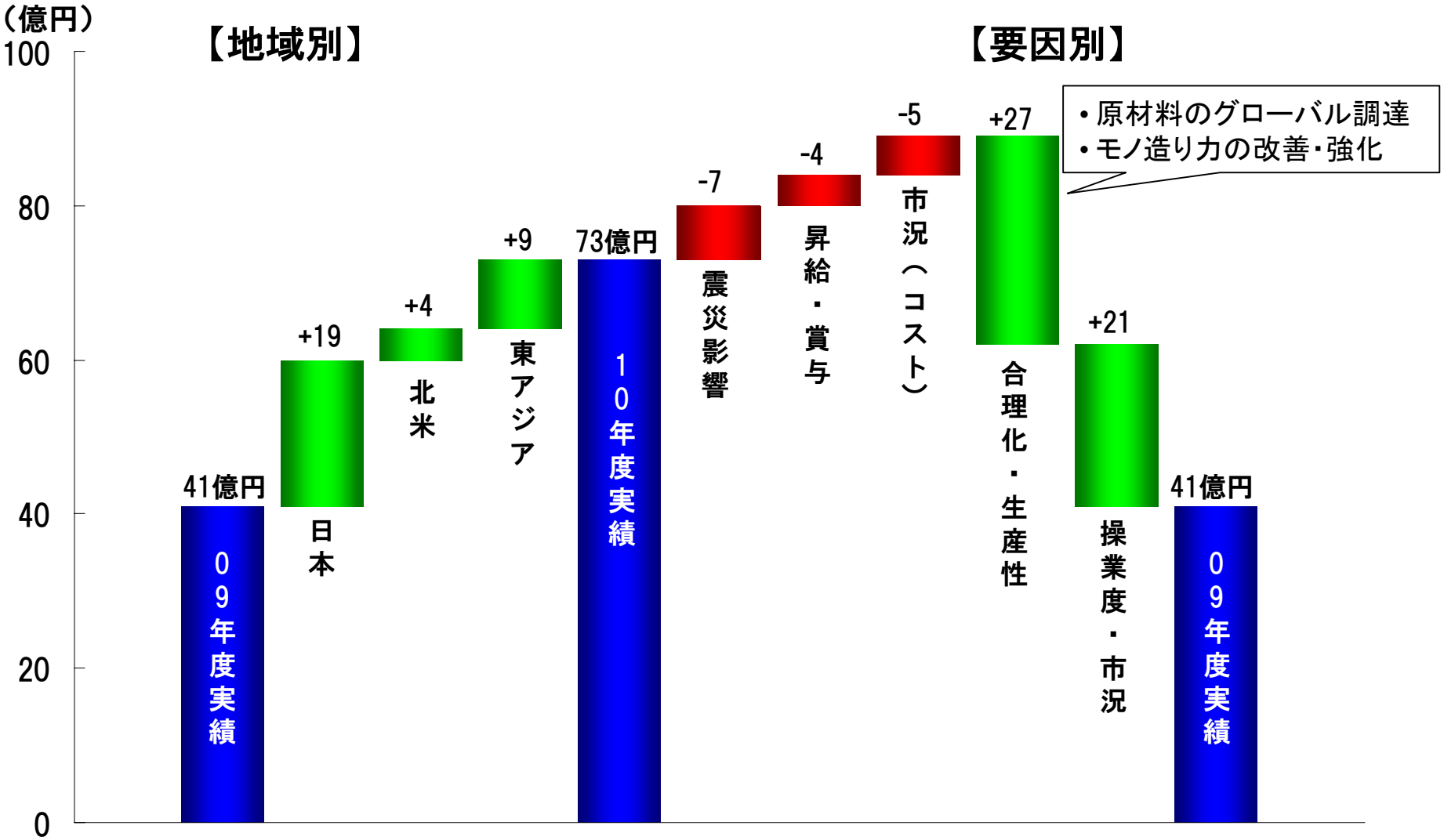
	2009年度		2010年度			
	上　期	通　期	上　期		通　期	
売 上 高	226.8	521.8	327.2	(144%)	638.2	(122%)
営業利益	9.6	41.1	38.5	(401%)	73.1	(178%)
率	4.2%	7.9%	11.8%		11.5%	
経常利益	10.8	43.2	38.7	(359%)	73.9	(171%)
率	4.7%	8.3%	11.8%		11.6%	
当期利益	7.1	29.8	22.9	(322%)	43.9	(147%)
総 資 産	427.1	435.8	444.0	(104%)	423.9	(97%)
自己資本	99.1	121.5	139.8	(141%)	158.7	(131%)
率	23.2%	27.9%	31.5%		37.4%	
借入金残	178.5	154.9	126.1		98.7	
DEレシオ	1.8	1.3	0.9		0.6	

（　）内は前期との比率

- 2010年度は営業利益、経常利益、当期利益共に過去最高益を更新
- 連結自己資本比率37.4%、ＤＥレシオ0.6倍と大幅に改善

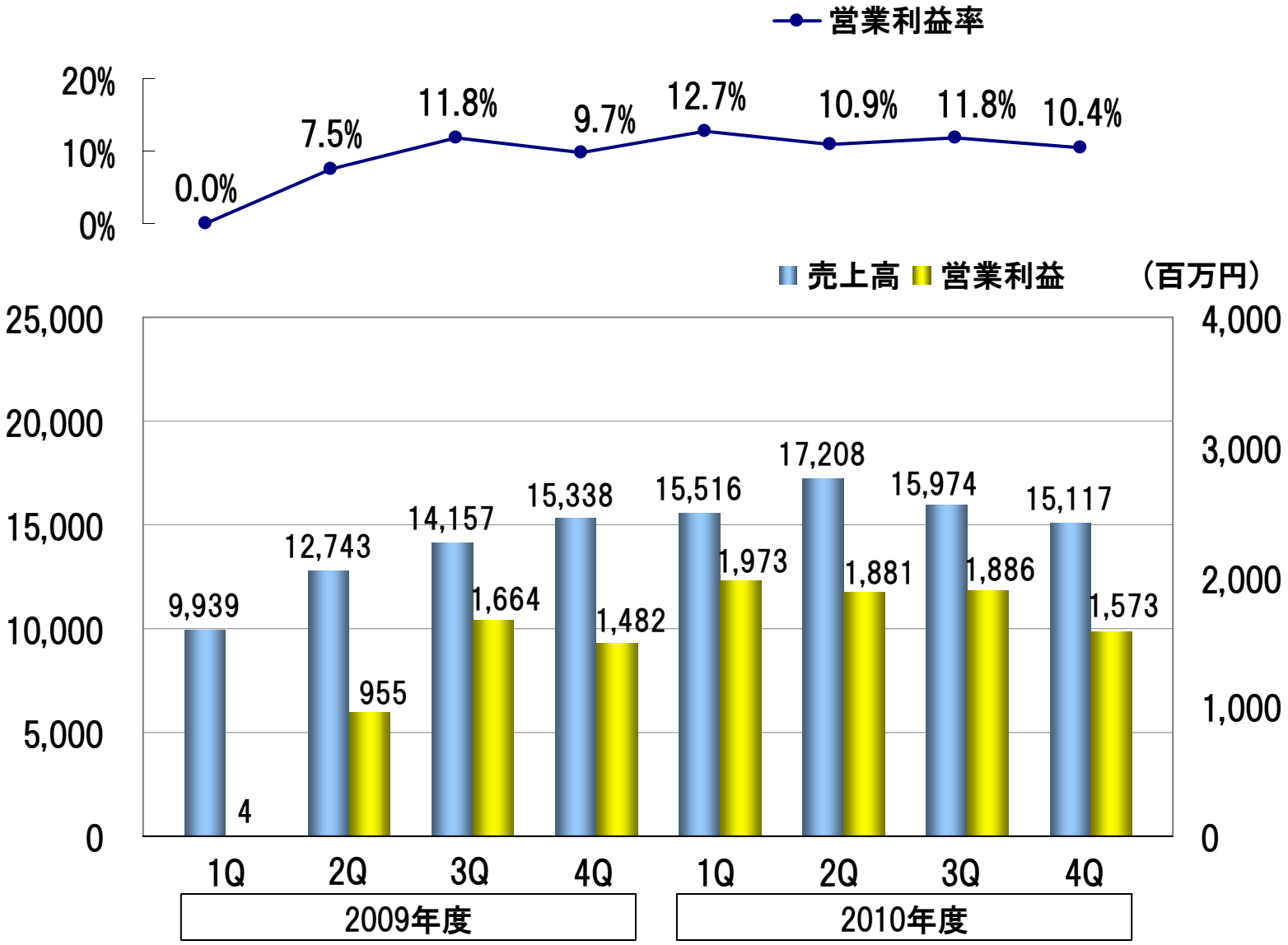
KINUGAWA

営業利益増加要因（地域別・要因別）



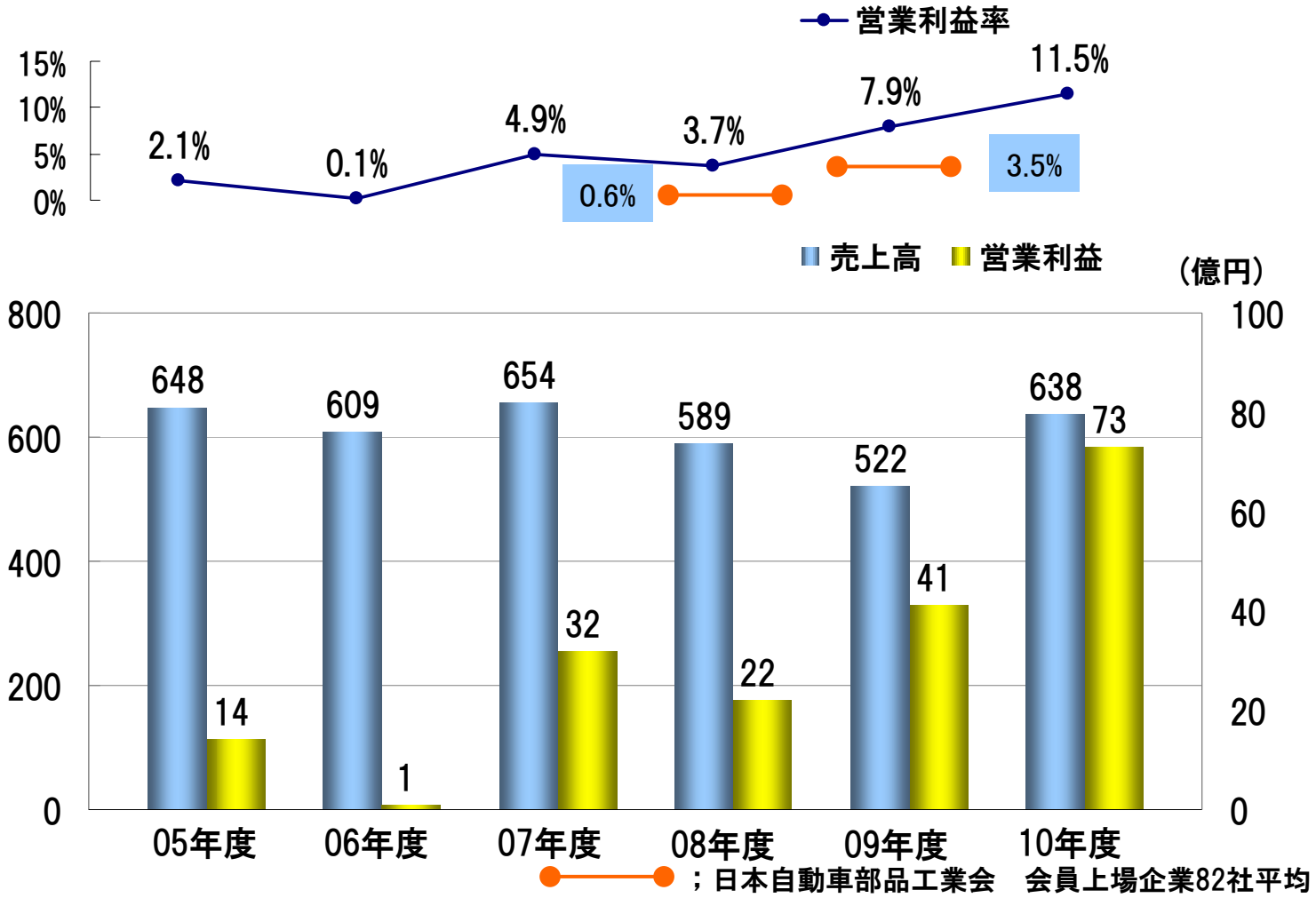
KINUGAWA

四半期毎 売上・営業利益推移（2009～2010年度）



KINUGAWA

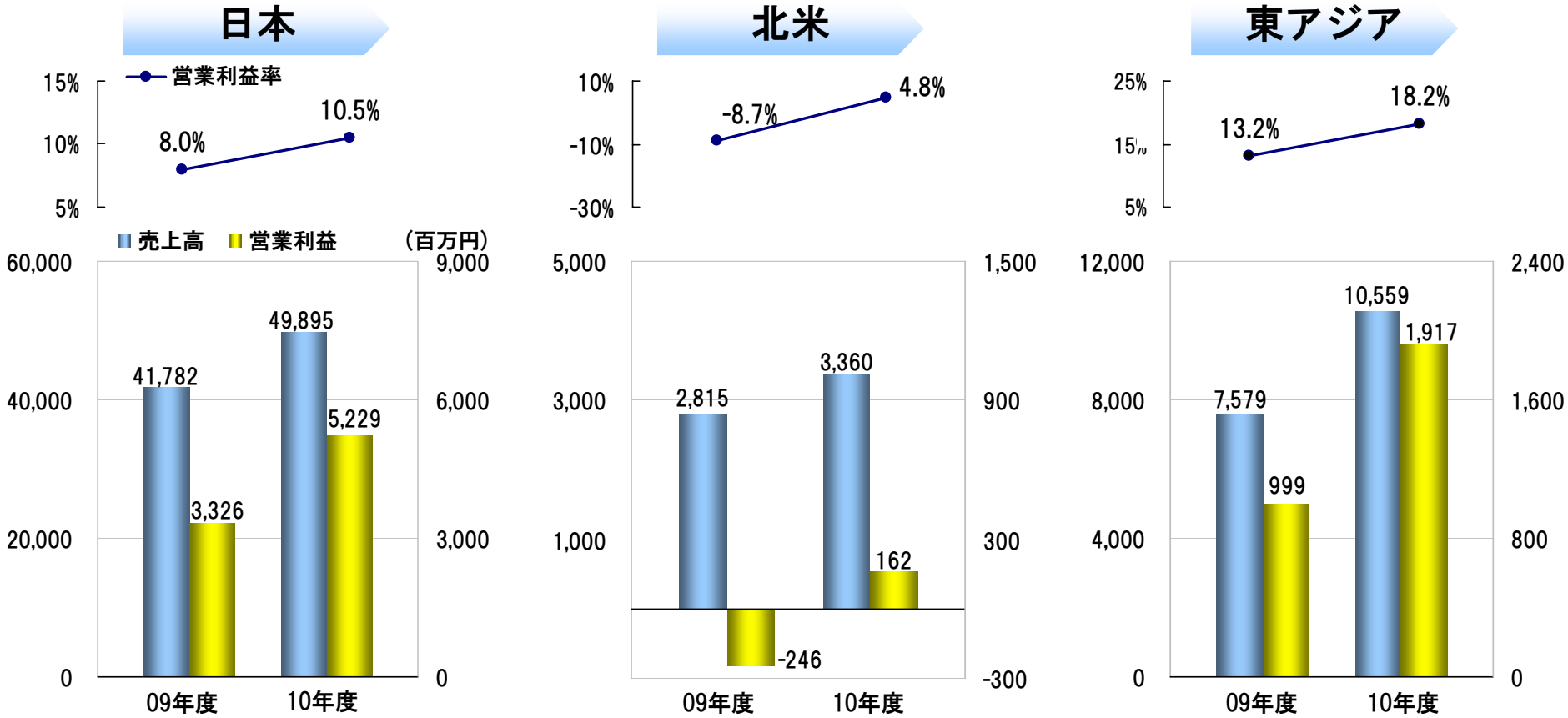
売上高・営業利益の推移（2005～2010年度）



■ 金融危機後の構造改革・コスト削減により、高収益体質を維持・継続。今年度の営業利益率は業界トップクラスの水準を確保

KINUGAWA

所在地別の状況

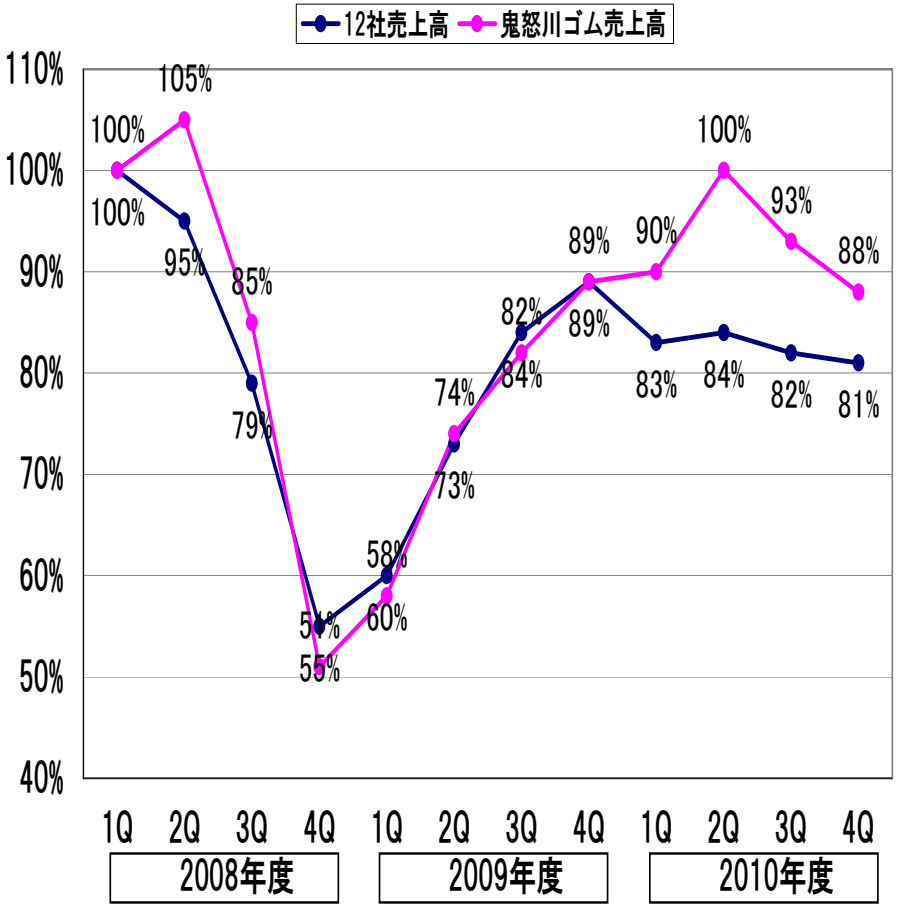


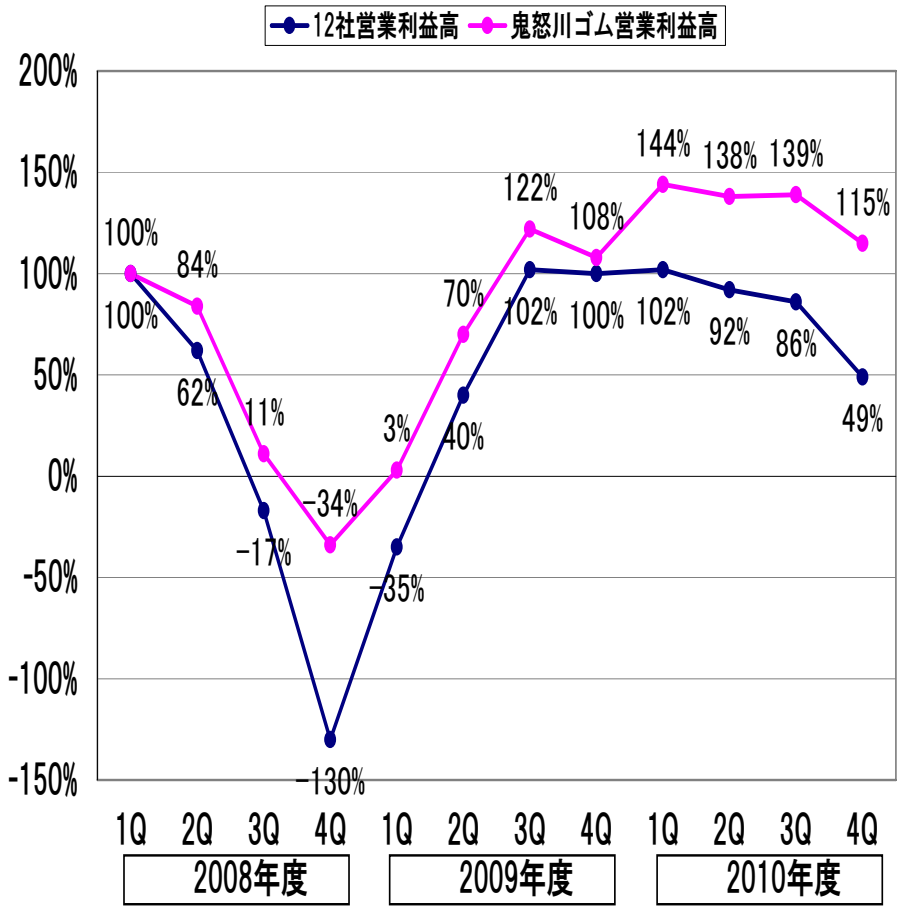
■全拠点で黒字化を達成

日本；　材料費・労務費をはじめとした総コスト削減活動
北米；　国内で実施した現場改善活動を水平展開
東アジア；大幅な受注増とモノ造りベンチマーク活動推進で高い利益水準確保

KINUGAWA

主要自動車部品メーカー12社と当社の四半期業績推移



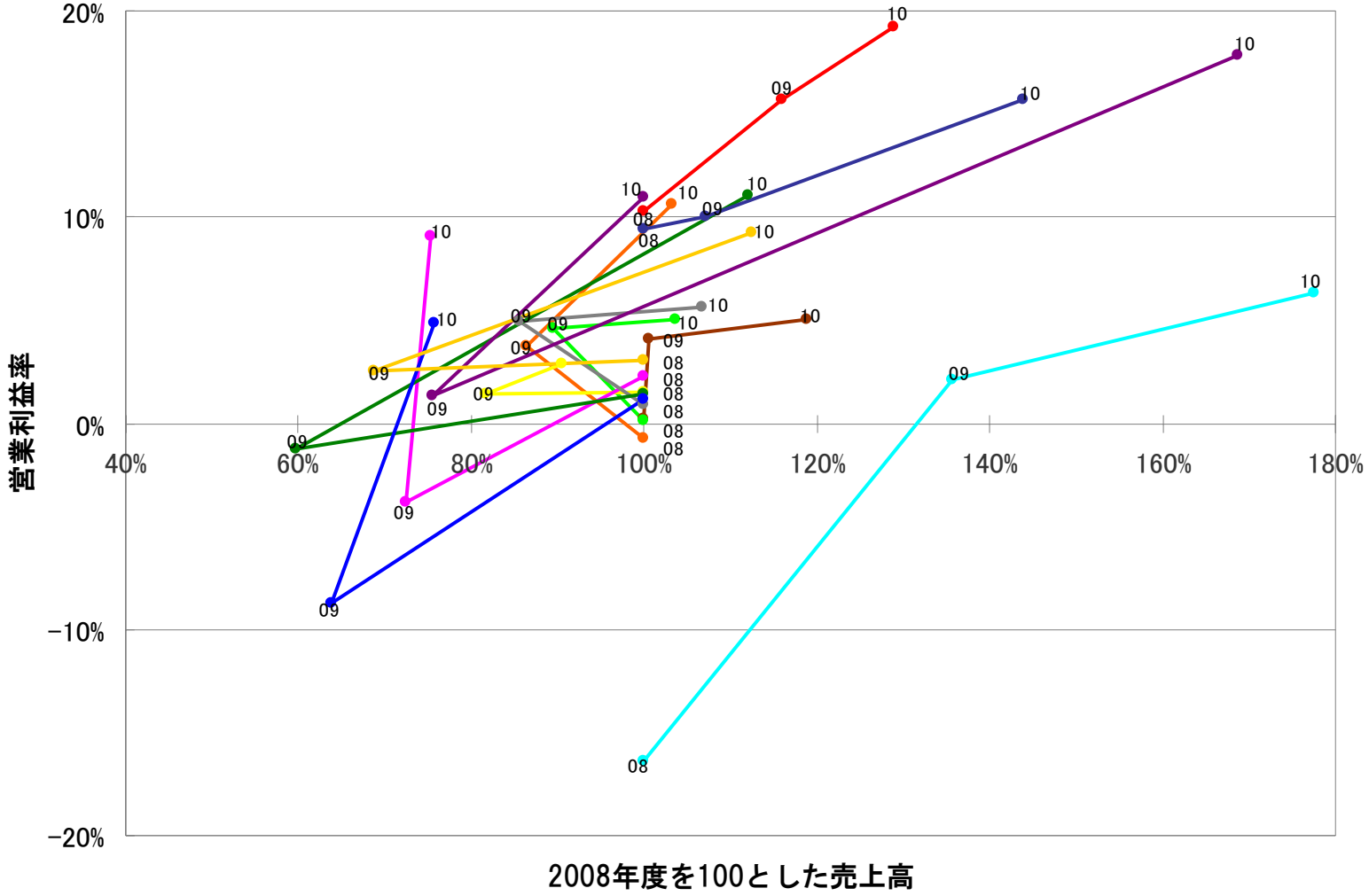


注: 売上高は、09/3 期1Q を100 とする指数　出所: 会社資料、SMBC 日興証券他

■ 金融危機時の営業利益の落ち込みを抑制、その後の利益回復は他社を上回る水準で推移

KINUGAWA

連結子会社の営業利益推移

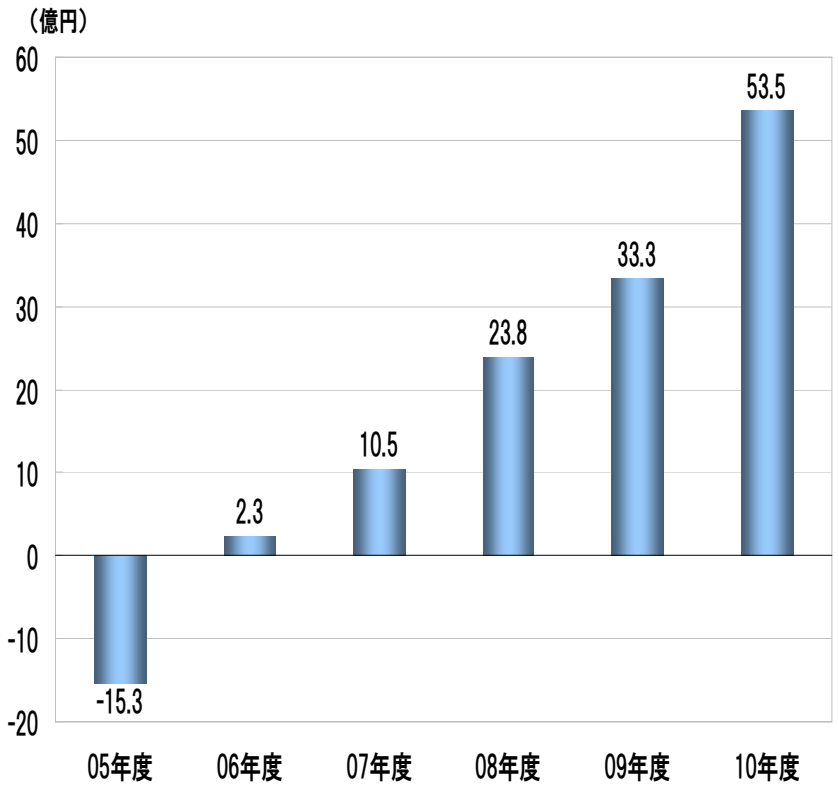


■ 2010年度は2009年度に対し、全連結子会社が増収増益

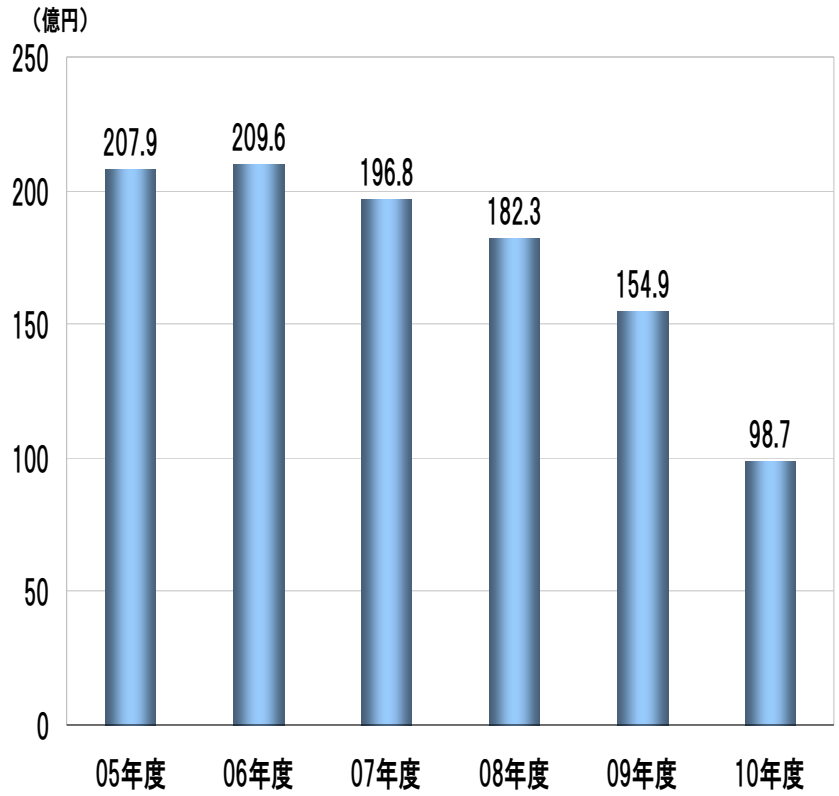
KINUGAWA

フリーキャッシュフロー・連結有利子負債推移

フリーキャッシュフロー



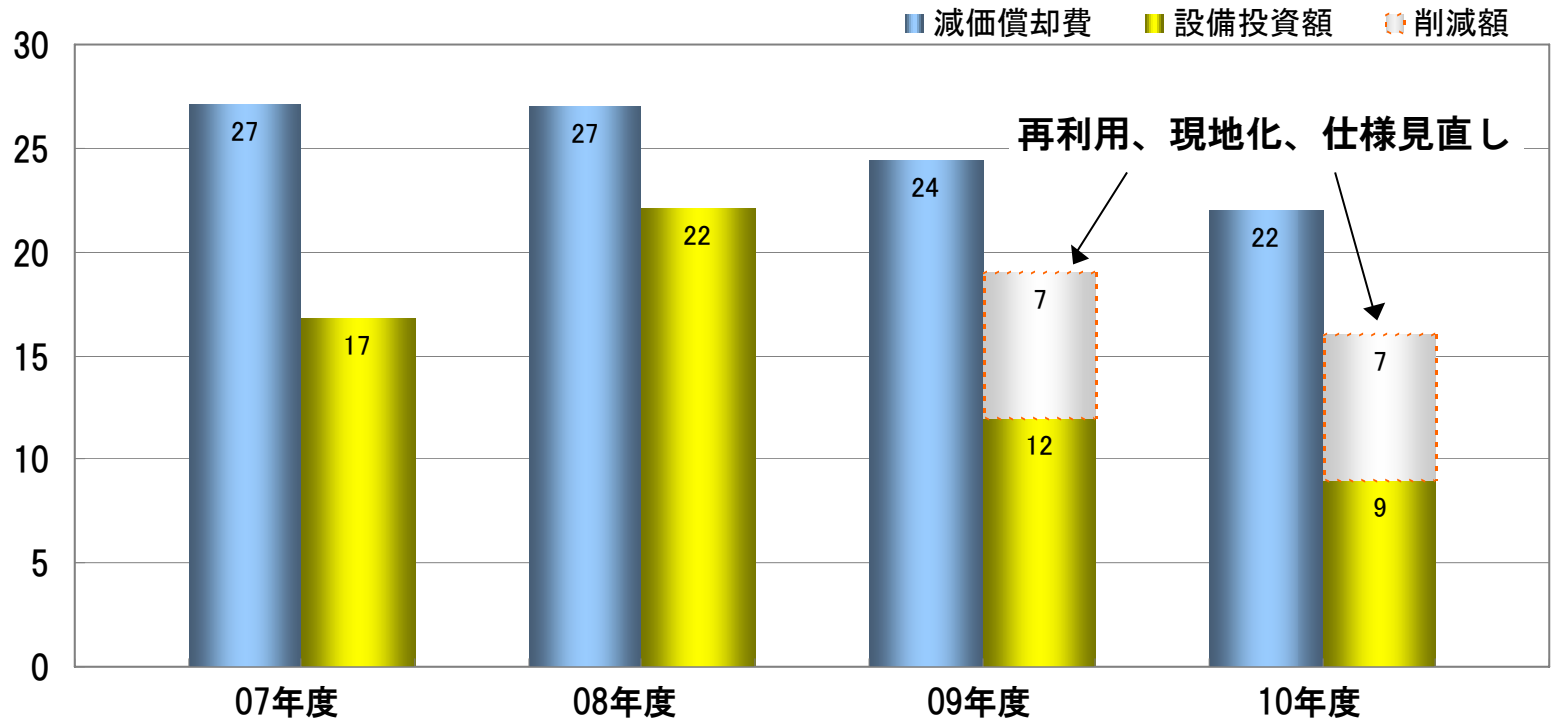
連結有利子負債推移



■ 営業活動によるキャッシュと設備投資の効率的な運営によりフリーキャッシュが着実に増加、有利子負債は100億円以下に減少

KINUGAWA

減価償却費・設備投資推移

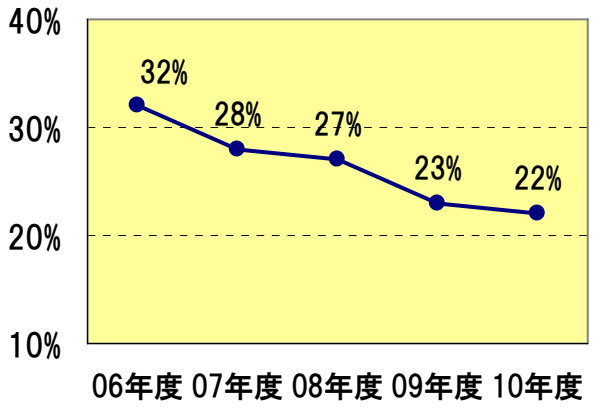


- 設備のLCC調達化
- 国内の中古設備を海外拠点（中国、タイ、他）に移設して活用
- 設備稼働率改善活動による現有設備能力の向上

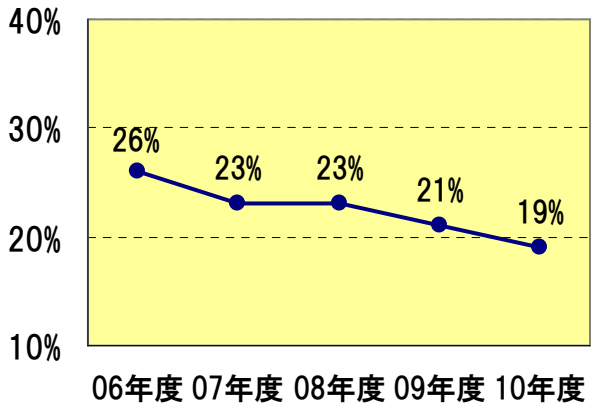
KINUGAWA

主要経営指標の達成状況

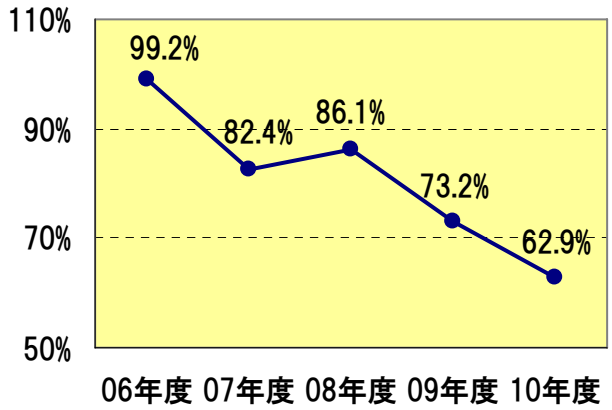
売上高労務費比率



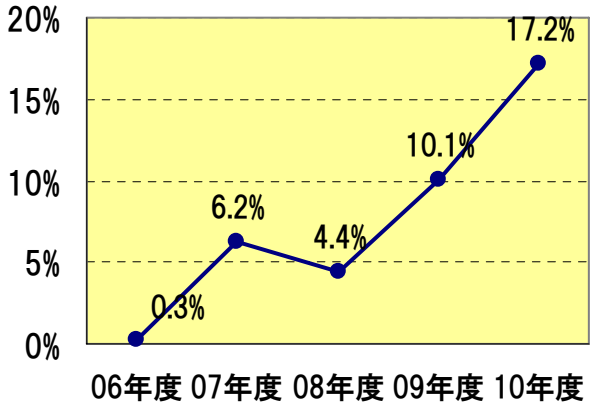
売上高固定費比率



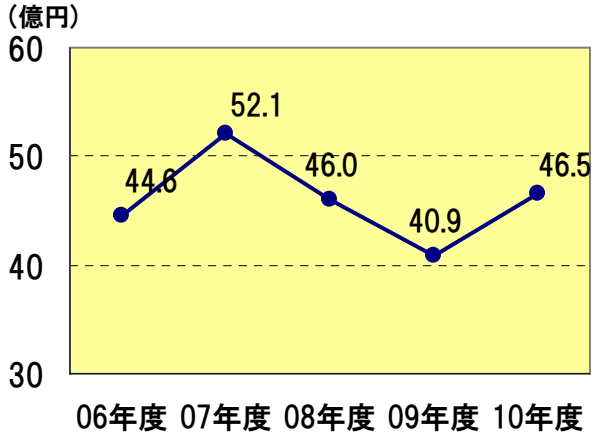
損益分岐点売上高比率



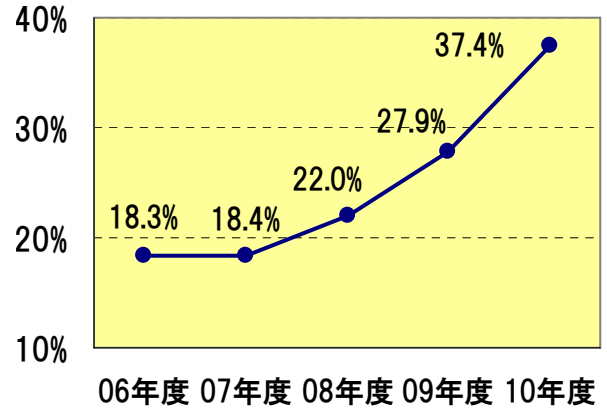
総資本経常利益率



棚卸資産残高



自己資本比率



KINUGAWA

東日本大震災による当社グループへの影響

地震により当社グループ真岡事業所（栃木県）において、受電設備等の損傷被害が発生。

迅速な初動対応により、一週間で復旧、3月21日に操業開始。

当社グループ人的被害は無し。

（億円）

	2010年度			
	業績予想（2月9日）	震災前見通し	実績	震災影響額
売 上 高	650	652	638	△ 14
営業利益	80	80	73	△ 7
経常利益	80	81	74	△ 7
当期利益	50	50	44	△ 6

震災による特別損失　…2億円

（内訳）真岡地区受電設備…6千万円
真岡地区事務厚生棟…7千万円
休業中の固定費…7千万円

KINUGAWA

1. 2010年度決算の状況

2. 当社グループの取組み

3. 今後の取り組み

2010年度の取組み

1. 経営課題

- 売上の持続的拡大と仕事の質の向上

2. 主な活動

- モノ造り力の改善・強化 （現場力向上活動）をグローバルで推進
- 拡販活動の推進
- 業容拡大と新規拠点展開

3. 推進組織

- プロジェクト活動（13プロジェクト）による進捗フォロー

2010年度の主な活動

1. モノ造り力の改善・強化(現場力向上活動)をグローバルで推進

- 整流化（直結化・一貫化）による付随作業の削減とリードタイム短縮
- セル生産化した工程を作業者の意見を取り入れて更に改善
- 購入品コスト削減

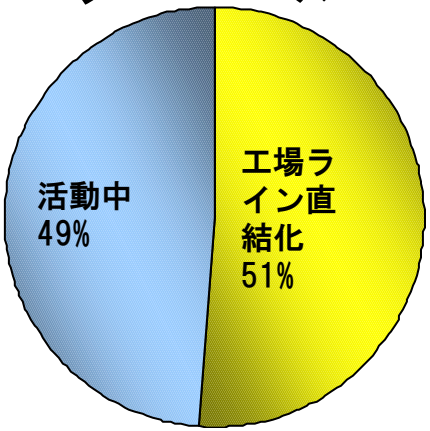
→

- 仕掛品削減によるスペース当たり売上高の向上
- 労働生産性の向上による人員削減
- 工場スペースのコンパクト化
- 材料・原材料の現地調達率の向上

工場ライン直結化の進捗状況

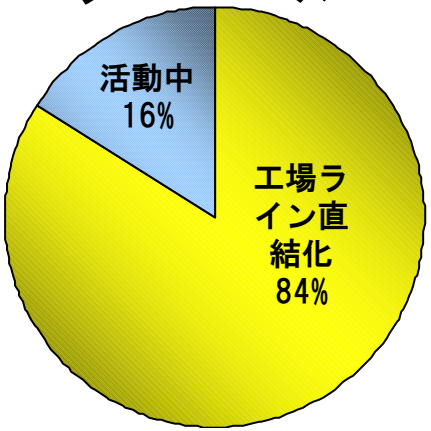
2009年度

グローバル

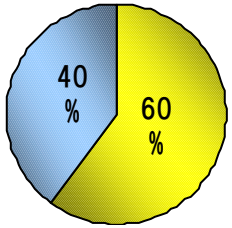


2010年度

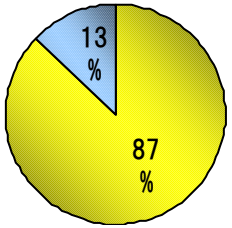
グローバル



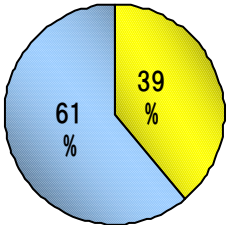
日本



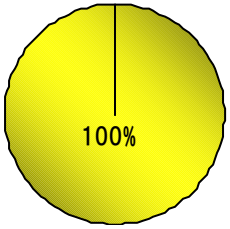
北米



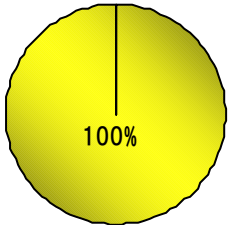
中国



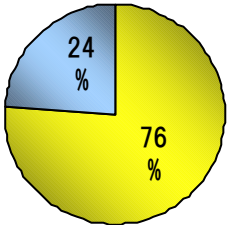
日本



北米



中国



KINUGAWA

活動事例紹介①　F-1段取り（キヌガワ郡山）

■ 樹脂押出しの口金交換工程
2人作業⇒細分化して5人で一斉に交換　段取時間（20分⇒5分）

KINUGAWA

活動事例紹介①　F-1段取り（鬼怒川広州）

■ F-1段取りをグローバルに水平展開
日本、中国、北米、タイの全6拠点で実施

KINUGAWA

活動事例紹介②　セル生産（キヌガワ防振）

■ セル生産方式（１人屋台ライン）
歩行数削減、手作業時間削減による出来高向上

KINUGAWA

2010年度の主な活動

2. 拡販活動の推進

既存顧客

- 中国の増産対応
- メキシコ拠点設立
- 東アジア新拠点向けシール部品受注
- 非自動車向け防振部品の販売強化
- 国内向けブレーキカップの受注拡大

新規取引先

- 欧米系カーメーカーのグローバルサプライヤーリストへの登録
- 中国民族系からの新規受注
- 韓国系ブレーキシリンダーメーカーからの新規受注

KINUGAWA

2010年度の主な活動

3. 業容拡大と新規拠点展開

- キヌガワメキシコ設立（2010年5月）
- 鬼怒川（大連）模具開発有限公司設立（2010年6月）
- 鬼怒川橡塑（蕪湖）有限公司設立（2010年12月）

1. 2010年度決算の状況

2. 当社グループの取組み

3. 今後の取り組み

今後の経営方針

持続的成長を可能とする事業運営

- 自動車部品メーカーの中でもトップレベルの収益を今後も維持向上させるため、これまでの諸活動を継続して推進
- 短期的には震災影響による生産量の変動にすばやく対応するためのモノ造り力の更なる改善強化を図り、収益を確保
- 将来の売上拡大のため、新規市場、新技術への取り組みを強化
- 従業員の技術・能力を強化し、仕事の質を向上

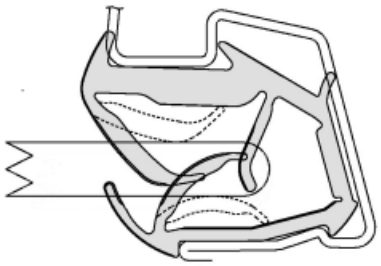
具体的取り組み

1. モノ造り力向上およびグローバル調達コスト削減活動の推進による競争力の向上
   - セル化・直結化の拡大と更なる進化
   - グローバル調達の対象費目を資材・金型から購入部品にも拡大
2. 事業分野別（地域別を含む）拡販活動の実行
   - インド、インドネシアでの拡販
   - ホース、型物、防振部品のグローバル拡販
3. 上記の諸活動を支えるためのグローバル人材の育成
   - 外国籍の人材採用
   - インターンシップ制度の受入れ先拡大

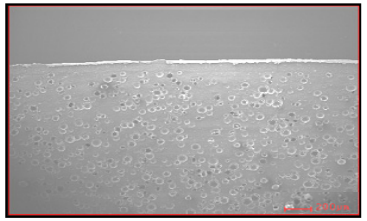
部品軽量化技術　発泡TPVグラスラン

当社独自の特殊な発泡処方による製法を確立（高発泡倍率＆押出し安定性の両立）

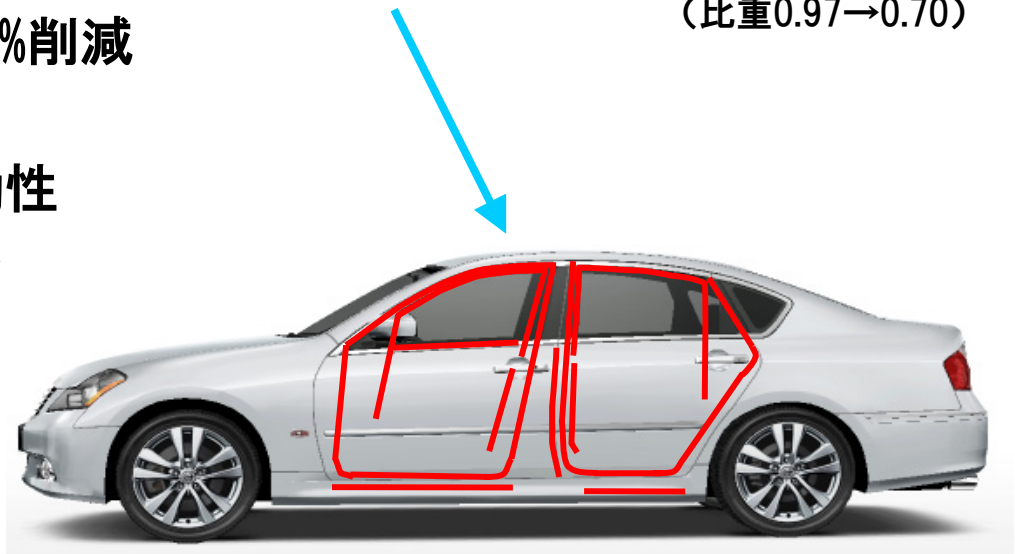
- ■エコフレンドリーなTPV
  - ―15%軽量化
  - ―生産エネルギー30%削減
  - ―コンパクトでシンプルな工程
  - ―100%リサイクル可能
  - ―製品生産時のCO2発生を63%削減
- ■高性能TPV
  - ―低／高温域で安定した摺動性
- ■客先要求に対応する広いレのラインナップ



製品断面：発泡セル



（比重0.97→0.70）

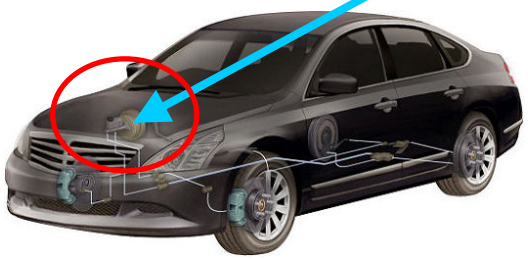


KINUGAWA

精密加工技術　ブレーキ用ゴム部品

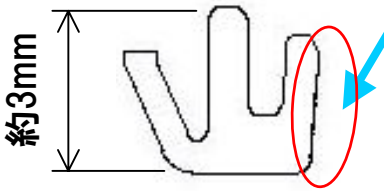
鬼怒川ゴム独自の技術によりブレーキ用精密ゴム部品で国内トップレベルを実現

- ■他社に類を見ない成形工法による高精度と高生産性の両立
- ■あらゆるお客様ニーズに対応できる豊富な材料バリエーション
- ■63年間におよぶ供給実績が物語る優れた品質保証体制

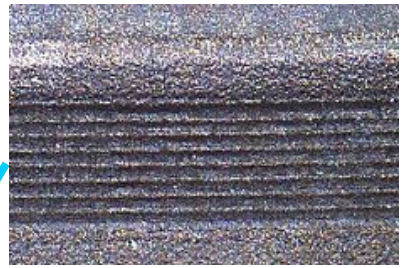


ブレーキマスタシリンダ

E形カップ



E形カップ断面図



部分拡大写真
微小R溝加工
深さ：約30μm　幅：約100μm
効果：摺動抵抗低減

KINUGAWA

2011年度　売上・利益計画

自動車生産台数が見通せないことから、現時点では業績予想の算定は困難

- 主要得意先の生産計画が明らかになった時点で開示（6月中を目標）
- 主要得意先の生産台数は急速に回復
- 原材料の調達はサプライヤー各社のご協力によりほぼ解消

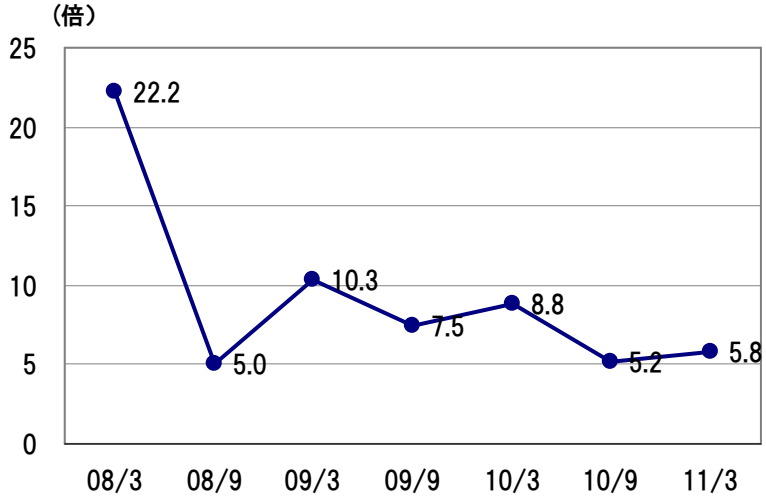
KINUGAWA

株主還元策

当社は株主還元の指標として、DOE（株主資本配当率）2～3%を目指しています
2011年3月期は普通配当で5円を実施予定

	07年度	08年度	09年度	10年度
当期純利益(百万円)	490	729	2,980	4,391
１株当たり 当期純利益（円）	7.30	10.86	44.40	65.42
１株当たり 配当金（円）	3.0	3.0	4.0	5.0

当社PER推移



当社株価推移

KINUGAWA

本書には、当社および/または当社グループに関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは当社が現在入手している情報に基づく、本書作成時点における予測等を基礎として記載されています。また、これらの記述のためには、一定の前提（仮定）を使用しております。これらの記述または前提（仮定）は主観的なものであり、将来において不正確であることが判明したり、将来実現しない可能性があります。実際の業績は、今後様々な要因により業績予想と異なる結果となる可能性があります。このような事態の原因となりうる不確実性やリスクは多数ありますが、これらに関する追加情報については、当社の有価証券報告書、短信等開示書類、プレスリリース等をご参照ください。

本書は、情報提供を目的とするものであり、投資勧誘を目的としているものではありません。

本書に記載されている当社ないしは当社グループ以外の企業等にかかわる情報は、公開情報等から引用したものです。情報の正確性・適切性等について、当社は何らの検証を行っておらず、またこれを保証するものではありません。

ご照会等は、下記までお願いいたします。

■鬼怒川ゴム工業株式会社　管理部

電話：043-259-3111（代表）

E-mail：kinugawa-ir@kinugawa-rubber.co.jp

■ホームページのご案内

ＵＲＬ： http://www.kinugawa-rubber.co.jp//index.html

《ＩＲ情報》http://www.kinugawa-rubber.co.jp/investor/

KINUGAWA